

1 . 評価結果概要表

作成日 平成 19年 5月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	0176100147		
法人名	株式会社 美唄環境センター		
事業所名	グループホーム「アルメリア」		
所在地	美唄市東5条南4丁目3番9号 (電 話) 0126-62-6816		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1 かでる2・7		
訪問調査日	平成19年5月24日	評価確定日	平成19年7月9日

【情報提供票より】(平成19年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 15年 2月 15日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 10人, 非常勤 9人, 常勤換算 16.25人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 80,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	11	要介護2	5
要介護3	0	要介護4	2
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 83.8 歳	最低 71 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	花田病院、市立美唄病院、美唄労災病院、吉村歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは閑静な住宅街に立地し、散歩・買い物など外出しやすい環境である。敷地が広く中庭には花壇や菜園があり、ゆったりと生活しやすいような配慮がなされている。また、近隣には小学校があり、ホームに子供達が立ち寄ったり地域住民が花の苗を持ってきてくれたりと、地域との交流が図られている。今後、ますます期待のできるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価から二年が経過し、当時とホームの様子や職員が異なる事により、改善課題に対する取り組みは実施されていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	今回、全職員で自己評価を実施し、内容の検討を行った。 今後、改善へ向けた具体的な取り組みを検討することが期待される。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	平成18年9月から運営推進会議を開催している。今後は、事業の内容を公表して明確になった課題について検討することが期待される。また、今のところホームの役割や機能について、積極的な広報活動が行われていないため、今後は地域・行政・家族への理解を深め、協力が得られるようPRしていくことが期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	介護計画の説明時や面会に来訪した際に、職員は家族に入居者の日常生活の様子を伝え、希望・要望を聞いている。来訪が困難な家族へは、今後定期的に入居者の状況を伝えることが期待される。苦情対応については、意見箱の設置場所や運用方法を検討することが期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの行事に近隣住民にも参加してもらったり、子供たちが来訪するなど地域との交流が図られている。今後も更なる地域との関わりを深めることが期待される。

２． 評 価 結 果 （ 詳 細 ）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
．理念に基づく運営					
１．理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に運営理念とケア理念を定めているが、地域交流を意識した理念になっていない。	○	今後、地域密着型サービスとしての地域におけるグループホームの役割を再考し、全職員で理念を検討することが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念とケア理念について、ホーム内の各所に掲示してあり、理念を全職員で意識出来るよう会議で具体的に話している。		
２．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の活動に職員が参加している。また、ホームの行事には、近隣住民が参加するなど地域との交流や見守りの協力がなされている。	○	今後は、入居者も地域の活動に参加し、地域においても役割を持てるよう検討することが期待される。
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の外部評価を実施するにあたり、全職員で自己評価に取り組んでいる。	○	今後は、改善計画の作成と改善に向けた具体的な取り組みが期待される。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年9月から運営推進会議を開催しているが、ホームの活動内容の議論までには至っていない。	○	今後、サービスの質の向上に向けて、明確になった課題を運営推進会議にて検討することが期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との関わりについては、運営推進会議に参加している。	○	今後、グループホームの役割や機能を行政にも発信し、地域密着型としての理解を得るような取り組みが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ケアプランを掲示した際に、家族に入居者の日常の様子を伝え要望を聞いている。また、状態変化に応じて電話にて報告している。金銭管理については、領収書を合わせ家族に用途を説明している。	○	来訪が困難な家族もいるため、今後は定期的に日常生活の様子を伝えることが期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪した際に状況報告をし、意見を聞いている。	○	苦情対応について、重要事項説明書に記載されているが、ホーム以外の相談窓口も明示することが期待される。また、意見箱の設置方法や運用方法を検討することが期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ数年、異動は行っていない。入居者の安定・安心に配慮し、入居者と職員との相性も考慮している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会主催の研修に参加し、報告会を行っている。また、地域の勉強会にも参加している。	○	今後、内部研修の充実を図り、ホームの在り方や地域密着型サービスについて全職員で学ぶことが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近郊施設と密に連携を取っており、合同学習会を実施している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	センター方式にてアセスメントを実施している。また、本人のQOLに合わせ、家族から情報を得たり、協力してもらうなど徐々にユニットの雰囲気に馴染めるような工夫がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活において、入居者に調理や洗濯物干しの手伝いをしてもらったり、レクリエーションをするなど、触れ合う時間を多く設けている。また、入居者との会話から、過去の経験や得意分野などの情報収集をし、例えば山菜採りに行き、どれが食べられる物なのか教えてもらっている。	○	入居者一人ひとりの生活のペースに合わせて、「してあげるケア」から「一緒にするケア」へ、生活を側面的に支援する入居者主体の生活の実現が期待される。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、本人・家族の意向を把握している。また、家族からの意見・要望を確認し、ホームでの生活の中で本人の気持ちや思いを把握できるよう努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	看護師から助言を得たり、月に1度の会議において、全職員の意見を取り入れ介護計画を作成している。また、介護計画提示時に家族の意向を確認している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施状況の確認（モニタリング）は毎月行っている。計画の見直しは3ヶ月に1度、状況変化があった場合は、そのつど見直しを行っている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物・通院・理美容院へなど入居者一人ひとりに応じた支援を行っている。また、入居者宅の庭の剪定などの外出希望にも応じている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から受診していた医療機関に通院することができる。家族付き添いによる受診が原則ではあるが、家族が遠方の入居者には職員が付き添いをしている。		
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの希望があれば検討しているが、病状が悪化した場合は入院し、医師の助言により他の施設へ移ることが多い。緊急時の対応としては、マニュアルが整備されており、職員採用時に救命講習を受けている。	○	緊急時の対応がスムーズに行えるよう、今後は定期的に救命講習を受講することが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊重と自己決定を大切にし、言葉掛けや会話においても配慮がなされている。		
21	52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズム・生活習慣を尊重し、本人に確認しながら希望に沿えるよう心掛けながら介護を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週に2回、入居者・職員共に買い物に行っている。また、食事のメニューを決めたり、調理や後片付けの手伝いをしている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を好まない入居者にもできるだけ入浴してもらえよう、声掛けの工夫をしている。時間帯としては、夕方から夕食後に入浴する入居者が多い。また、希望により毎日入浴することもできる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑作り・掃除・炊事・洗濯など一人ひとりの力量に応じた役割を支援している。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や入居者の体調を考慮しながら、ホームの車を活用し、買い物や散歩など外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は自動ドアになっており、外側から自由に出入りが可能である。内側からの出入りは制限されており、職員管理の下、外に出ることができる。	○	今後は、入居者が自由に外出でき、外出したことが分かる仕組みと見守りが可能な体制を作ることが期待される。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を行っているが、地域住民の協力を得られるような働きかけを行うまでに至っていない。	○	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を作成しており、水分量・食事量を把握している。また、お茶の時間の設定や入浴時に水分摂取するなど、水分補給にも配慮がなされている。キッチンカウンターにお茶のポットを置いてあり、いつでも自由に水分補給できるようになっている。		今後は年に数回、管理栄養士に栄養バランスや摂取カロリーなど相談することが期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には、植物を置いたり絵を飾るなど家庭的な工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には仏壇や記念の品々など本人の馴染みの物を持ち込み、落ち着いた暮らしができるような配慮がなされている。		

 は、重点項目。